

## 令和7年度 卒業時アンケート調査結果概要について

【目的】本調査は本学の教育及び学修成果等を検証することを目的として4年生の卒業時にアンケートを実施

- 【方法】1. 調査対象：令和7年度卒業生  
2. 調査方法：大学が学生に付与しているメールで依頼を行い、Googleフォームにより回答を集約

## 【結果】

## 問1. 回答学生

学部	回答者数	対象者数	回答率
体育学部（全体）	513	575	89%

## 問2. 仙台大学の4年間で一番何に力を注ぎましたか？

項目	1. 勉学	2. 資格取得	3. 部活動	4. 友人づくり	5. その他学内での活動	6. 学外での活動	合計
回答数	63	72	251	10	11	106	513
割合	12.3%	14.0%	48.9%	1.9%	2.1%	20.7%	100.0%

分析結果：回答者の約半数（48.9%）が「部活動」に最も力を注いだと回答しており、次いで「学外での活動（20.7%）」が多くなっている。このことから、学生の多くが座学（勉学・資格取得：合計約26.3%）よりも、課外活動を通じた実践的な経験やコミュニティへの参加を重視して4年間を過ごしたことが明確に読み取れる。活発な学生生活を送る校風が反映されていると推測される。

## 問3. 仙台大学の教育（教育課程）で成長できた実感はありますか？

項目	1. そう思う	2. ややそう思う	3. あまりそう思わない	4. 全くそう思わない	合計
回答数	244	229	35	5	513
割合	47.6%	44.6%	6.8%	1.0%	100.0%

分析結果：回答者の9割以上（合計92.2%）が「そう思う（47.6%）」または「ややそう思う（44.6%）」と回答しており、大多数の学生が教育課程を通じて自身の成長を実感していることがわかる。特に「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と回答した否定的な意見はわずか7.8%に留まっており、仙台大学の提供する教育プログラムが学生のニーズに合致し、着実な学修成果をもたらしていると考えられる。

## 問4. 仙台大学の施設・設備に満足していますか？

項目	1. そう思う	2. ややそう思う	3. あまりそう思わない	4. 全くそう思わない	合計
回答数	173	219	103	18	513
割合	33.7%	42.7%	20.1%	3.5%	100.0%

分析結果：「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた肯定的な回答が76.4%を占めており、全体として施設・設備への満足度は高い傾向にある。一方で、否定的な回答が約2割強（23.6%）存在しており、前問の教育課程への評価（否定回答7.8%）と比較すると、設備面において改善を求める層が一定数存在することが読み取れる。

## 問5-1. 仙台大学での4年間の「あなたの目標」は何でしたか？

項目	1. 学業	2. 資格取得	3. 部活動	4. 友人作り	5. 留学	6. ボランティア	7. 学外での活動（アルバイト等）	8. 目標ができなかった	9. その他
回答数	69	159	203	5	4	1	38	12	22
割合	13.5%	31.0%	39.6%	1.0%	0.8%	0.2%	7.4%	2.3%	4.3%

分析結果：「部活動（39.6%）」が最多で、次いで「資格取得（31.0%）」が高い割合を占めている。問2で最も注力したとされる「部活動」が目標の中心である一方、目標段階では「資格取得」を掲げる学生も多く、競技実績と専門スキルの習得を両立させようとする意欲的な姿勢が伺える。対照的に、留学やボランティアなどの活動を目標とした学生は極めて限定的であることも特徴である。

## 問5-2. 仙台大学での4年間であなたの目標は達成できましたか？

項目	1. そう思う	2. ややそう思う	3. あまりそう思わない	4. 全くそう思わない	合計
回答数	212	227	59	15	513
割合	41.3%	44.2%	11.5%	2.9%	100.0%

分析結果：「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた肯定的な回答が85.5%に達しており、大多数の学生が4年間で掲げた目標を達成したと実感している。否定的な回答は14.4%に留まっており、問5-1で多く挙げられた「部活動」や「資格取得」といった具体的な目標に対し、多くの学生が満足のいく成果を得られたことが読み取れる。

## 問6. 仙台大学に入学して良かったと思いますか？

項目	1. そう思う	2. ややそう思う	3. あまりそう思わない	4. 全くそう思わない	合計
回答数	256	212	39	6	513
割合	49.9%	41.3%	7.6%	1.2%	100.0%

分析結果：「そう思う（49.9%）」と「ややそう思う（41.3%）」を合わせた肯定的な回答が91.2%と極めて高く、大半の学生が入学に満足している。特に約半数が「そう思う」と強く肯定しており、これまでの設問で示された「部活動の充実」や「目標の達成」が、大学生活全体の高い満足度につながっていると推測される。

## 問7. 専攻分野に関する専門的・応用的な知識や技術を身につけることはできましたか？

項目	1. そう思う	2. ややそう思う	3. あまりそう思わない	4. 全くそう思わない	合計
回答数	232	245	31	5	513
割合	45.2%	47.8%	6.0%	1.0%	100.0%

分析結果：肯定的な回答が93.0%と高い数値を示しているが、その内訳は「そう思う（45.2%）」と「ややそう思う（47.8%）」に二分されている。約半数が「やや」という控えめな肯定に留まっている点は、専門性の習得度合に個人差がある、あるいは「実技は得意だが理論には自信がない」といった学生心理の表れとも推測され、より確信を持たせるための教育的アプローチの余地を残している。

問8. 大学で専攻した分野が果たす役割を深く理解することはできましたか？

項目	1. そう思う	2. ややそう思う	3. あまりそう 思わない	4. 全くそう 思わない	合計
回答数	248	226	36	3	513
割合	48.3%	44.1%	7.0%	0.6%	100.0%

分析結果：「そう思う（48.3%）」と「ややそう思う（44.1%）」を合わせて9割を超える学生が理解を示している。しかし、スキルの修得を尋ねた問7に比べ、本問では「全くそう思わない」という強い否定は減少しているものの、依然として「ややそう思う」以下の層が半数以上を占めている。知識として身につけるだけでなく、その社会的意義や役割を「深く」確信するまでには至っていない層が一定数存在し、教育の深化における課題を示唆している。

問9. 専攻分野の実践の場において、知識・技能を相手に的確に伝える力はつきましたか？

項目	1. そう思う	2. ややそう 思う	3. あまりそう 思わない	4. 全くそう 思わない	合計
回答数	210	263	3	37	513
割合	40.9%	51.3%	0.6%	7.2%	100.0%

分析結果：「そう思う」「ややそう思う」の肯定的な回答が合計約92.2%を占めており、学生の満足度や特定のスキルの習得において非常に高い成果を感じていることがわかる。一方で「全くそう思わない」という強い否定が37名（7.2%）存在しており、特定の層に対しては何らかのフォローアップや課題の掘り下げが必要である。

問10. 多様な人々と円滑な人間関係を築く力はつきましたか？

項目	1. そう思う	2. ややそう 思う	3. あまりそう 思わない	4. 全くそう 思わない	合計
回答数	310	174	25	4	513
割合	60.4%	33.9%	4.9%	0.8%	100.0%

分析結果：「そう思う」「ややそう思う」の肯定派が合計で約94.3%と、極めて高い割合を示している。特に「そう思う（強く肯定）」が6割を超えている点は特筆すべき成果と考える。これは、「問2」で半数近くが「部活動」に、2割が「学外での活動」に注力したという結果と強く連動していると予想される。集団での活動や外部との関わりの中で揉まれることで、自然と「多様な人々とのコミュニケーション能力」や「人間関係構築力」が養われたことが裏付けられている。

問11. 指導や支援を行う場において、専門的知見を踏まえて、適切にコミュニケーションできる力はつきましたか？

項目	1. そう思う	2. ややそう 思う	3. あまりそう 思わない	4. 全くそう 思わない	合計
回答数	263	229	20	1	513
割合	51.3%	44.6%	3.9%	0.2%	100.0%

分析結果：「そう思う」「ややそう思う」の肯定的な回答が約95.9%を占めている。「そう思う」と強く肯定している層が半数（51.3%）を超えていることから、本学のカリキュラムや実習等の指導が、学生の自信と実践力の育成に大きく貢献していると評価できる。

問12. 多様な人々とコミュニケーションを図りながら課題を探求し、主体性を持って課題解決に取り組む力はつきましたか？

項目	1. そう思う	2. ややそう 思う	3. あまりそう 思わない	4. 全くそう 思わない	合計
回答数	278	205	28	2	513
割合	54.2%	40.0%	5.5%	0.4%	100.0%

分析結果：「そう思う（54.2%）」が過半数を超え、肯定回答は合計94.2%を占めている。多様な他者との協働や課題解決といった複合的な能力に対し、多くの学生が手応えを感じていることが分かる。一方で、依然として4割の学生が「ややそう思う」という段階にあり、実社会の複雑な課題に対して主体性を発揮しきれるか、自信の定着度にはまだ個人差が見られる。

問13. 本学は令和5年度から学生自身に学修に使用する情報端末を各々準備してもらう「BYOD方式」に切り替えました。

「BYOD方式」になったことで、情報端末の操作の理解やWord、ドキュメント、Excel、スプレッドシート等の活用方法の理解は促進しましたか？

項目	1. そう思う	2. ややそう 思う	3. あまりそう 思わない	4. 全くそう 思わない	合計
回答数	247	218	41	7	513
割合	48.1%	42.5%	8.0%	1.4%	100.0%

分析結果：令和5年度から導入されたBYOD方式は、9割以上の学生に対して「ITスキルの向上」という点で明確な成果を上げていることが分かる。自分自身の端末を日常的に使用することで、オフィスソフトやクラウドツールの操作習熟が促進されたことが分かる。一方で、約1割弱の学生が理解の促進を感じていないため、PC操作に苦手意識を持つ学生へのフォロー体制の検討も必要である。

問14. 本学の授業は、情報端末を効果的に活用する内容となっていましたか？

項目	1. そう思う	2. ややそう 思う	3. あまりそう 思わない	4. 全くそう 思わない	合計
回答数	229	225	54	5	513
割合	44.6%	43.9%	10.5%	1.0%	100.0%

分析結果：約88.5%の学生が授業での端末活用を肯定的に評価しており、全体としては良好な結果となっている。しかし、否定的な意見（あまりそう思わない・全くそう思わない）が1割強（11.5%）存在している。

問13で学生は自身の端末操作スキルは向上していると感じているものの、それが「授業内で効果的に活かされているか」については少し評価が分かれている。教員側がBYODを前提とした授業設計（双方向ツールの活用、ペーパーレス化、クラウドでの共同作業など）をさらに最適化していくためのFD研修などが、今後のさらなる満足度向上に繋がる可能性を示唆している。